

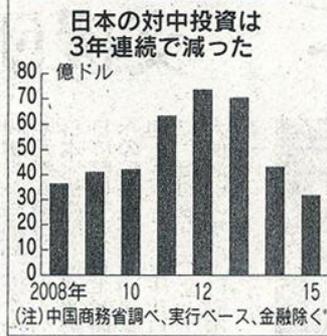
- 01/19・動き出すイランビジネス タンカー出航 ダイムラーは現地生産準備
凍結資産約1,000億ドルの半分が解除 人口7,800万人の市場に各国企業殺到は確実
・産油国ファンド、売り圧力 日経平均1万7000円割れ
原油安で財政赤字、政府系ファンドが穴埋め 保有銘柄の下げ目立つ
- 01/20・中国経済デフレの影 昨年実質6.9%成長 減速歯止めへ課題 < 1 >
粗鋼生産能力の過剰は4億トン（日本の年間生産量約1億トン）
昨年末不動産在庫面積7億平方メートル以上 2年間で5割近く増える
・訪日客2000万人時代に 消費額3.4兆円 景気・企業業績下支え < 2 >
昨年比47%増の1973万人 電子部品輸出3.6兆円、自動車部品輸出3.4兆円並み
・習近平氏、サウジ国王と会談
・米財政赤字5年ぶり増（16年度、予算局予測）社会保障費膨らむ
- 01/21・日経平均1年3カ月ぶり安値 円高進行、一時115円台
・昨年の国債買越 海外勢、過去最大18兆円 発行額の14%相当
・日本の対中投資、昨年25%減 景気減速・人件費高騰で < 3 >
マイナスは3年連続 ピーク12年の半分以下 世界全体の対中投資は6.4%増加
・安倍首相 憲法改正「現実的段階に」 国民投票にも言及（参院決算委員会）
・香港ドル8年5カ月ぶり安値 中国減速が波及、資本流出懸念
・ルーブル最安値 年初からの下げ幅10%に ロシア、原油安響く
- 01/22・欧州、物価低迷を警戒 中銀が追加緩和示唆 量的緩和は現状維持
・イラン、外務次官をサウジ派遣 対話の糸口探る
近隣国との緊張は経済再生の足かせ サウジはイランの経済力増大を警戒
- 01/23・日経平均941円高 欧州追加緩和に期待 海外ファンドが短期売買
- 01/24・習近平氏、イランと首脳会談 経済・技術で協力強化 < 4 >
制裁解除後、初の外国首脳訪問 高速鉄道など支援で合意
- 01/25・日本貿易赤字 昨年、14年比5分の1の2.8兆円に < 5 >
原油安で縮小 輸出（3.5%増）主導の黒字化遠く
・日本経済新聞世論調査 内閣支持横ばい47% アベノミクス「評価」37%
- 01/26・ロシア、6年ぶりマイナス成長 昨年GDP3.7%減
原油価格下落、ウクライナ問題を巡る欧米経済制裁が響く

<1>

中国経済は生産と投資の不振が鮮明に
(前年比伸び率、%、▲は下落)

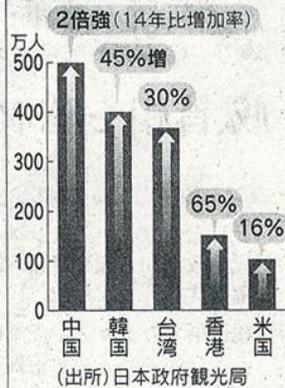
	2014年		15年	
実質成長率	7.3	▼	6.9	1990年以来 25年ぶり低水準
生産 (工業生産)	8.3	▼	6.1	設備過剰が深刻、 発電量も減少
投資 (固定資産投資)	15.7	▼	10.0	鉄道整備など インフラ頼み続く
消費(社会消費 費品小売総額)	12.0	▼	10.7	ネット通販は 売上高33%増
不動産開発投資	10.5	▼	1.0	在庫が重く 伸び10分の1に
卸売物価指数	▲1.9	▼	▲5.2	デフレ圧力で 企業債務負担重く

<2>



<3>

15年の訪日客数は過去
最高の1973万人



15年の訪日客の
旅行消費額は中国が突出
(観光庁)

	消費額 (億円)	14年比 増加率
中国	14,174	2.5倍
台湾	5,207	47%
韓国	3,008	44%
香港	2,627	92%
米国	1,814	23%
タイ	1,200	25%
豪州	870	26%
シンガポール	579	63%

<4>

中国とイランが合意した主な協力分野

- 中国の経済圏構想「一帯一路」
- 原子力エネルギーの平和利用
- 気候変動対策
- 鉱工業、投資
- 情報通信技術
- テヘランーマシャド間の高速度鉄道への資金提供
- イラン南部の保税地域などの開発

<5>

2015年の国・地域別の貿易収支

(単位億円、カッコ内は前年比増減率%、▲は減少または赤字、アジアには中国含む。差引額は四捨五入の関係で一致しない場合がある)

	輸出額	輸入額	差引額
総額	756,316 (3.5)	784,637 (▲8.7)	▲28,322 (赤字縮小77.9)
米国	152,249 (11.5)	80,532 (6.8)	71,717 (17.4)
E U	79,853 (5.3)	86,241 (5.6)	▲6,388 (赤字拡大9.5)
アジア	403,428 (2.1)	383,827 (▲0.6)	19,601 (117.8)
中国	132,292 (▲1.1)	194,203 (1.3)	▲61,911 (赤字拡大6.8)
中東	31,673 (6.0)	95,703 (▲39.5)	▲64,029 (赤字縮小50.1)